

オリーブの会通信

2013年12月7日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0078 高松市今里町一丁目499-2
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)
<http://khj-olive.com/>



草取り当日は風も強く、一段と寒く感じていましたが、みんな黙々と作業をしていました。
終了後、温かい部屋でお茶とお菓子をいただき、親と若者と別れておしゃべりしました。
Mさんがヤーコン入りのホットケーキを焼いてきて下さり、またHさんにはいろいろお気遣いいただき有難うございました。(丸亀市「浄通寺」& 境内の一部 11/29撮影 S.Mさん)

第138回月例会ご案内

日 時	2013年12月22日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~)
場 所 (変更あり)	香川県社会福祉総合センター  7階 (第2中会議室) 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~13:40 報告・連絡 川井理事長 13:40~14:45 報告: 困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修(内閣府) 川井理事長他 報告: ひきこもり大学(福岡大会をうけて)他 グローバルシップスこうべ 代表 森下 徹氏 14:45~15:00 休憩 15:00~16:30 グループ別話し合い
参 加 費	・会員1家族 1,000円 ・一般の方 1,500円

平成 25 (2013) 年も残り少なくなり、厳しい寒さが続く今日この頃ですが会員の皆様にはくれぐれもお体を大切にされ、新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

さて、平成 25 年度は「ひきこもり支援に対する新しい流れ」が始まり、来年度はその流れが大きくなるとなると地域に浸透しようとしています。とりわけ、オリーブの会を取り巻く環境も追い風となっています。

今後、オリーブの会は、賛助会員や関係機関等の皆様のご支援をいただきながら、若者が心の安心を得て希望ある生活ができるよう会員が一丸となって前へ進みましょう。来る 12 月月例会には、多数のご出席をお待ちしております。

先月の月例会の概要は、次のとおりです。お知らせ致します。

【1 1 月月例会の概要】 (内容が盛りだくさんのため定刻 5 分前に開始しました。)

1 川井理事長の報告・連絡

- (1) 日程 月例会 12 月 22 日 運営委員会 12 月 1 日、カウンセリング 12 月 14 日
- (2) 申請 助成金申請 2 件を提出しました。
- (3) アンケート ひきこもりの根拠データになるので積極的に提出を願います。
- (4) 研修 ピアサポーター (注) 養成研修に 3 名参加、ハードの中にも有意義でした。

(注) 「ピアサポート」とは、当事者性のある人が経験を生かして他者に支援を行うこと。
「ピアサポーター」とは、過去にひきこもりの経験がある方、ひきこもりの家族をいう。

2 香川県議会議員 都築信行氏の挨拶

国においては「ピアサポーター制度」を立ち上げましたが、香川県は未設定です。今後、県議会でもこの制度を紹介し、訪問支援の必要性を訴え、諸課題の解決に向けてお役に立てるようにしたい。

3 「さぬきサポートステーションの居場所開設について」

さぬきサポステ総括コーディネーター 鷺見 典彦氏

- 平成 25 年度香川県緊急雇用創出基金事業の一つとして 12 月から居場所を開設することが出来ることになった。
- 10 月中旬から試験的に実施しているが、予想以上の効果が出ていることを感じている。具体的には、居場所で農家の支援を受けてニンニク割り作業を若者に体験してもらったところ、「毎日の達成感」を得ると共に、「自分で稼ぐこと」が出来て良かったようだ。
- 今は、次のメニューも考えているので自由に来て欲しい。
- 今日講演の木村先生を紹介
私自身は足のしびれで辛く痛い思いをしていた時、木村先生に出会い、見てもらって良くなった。木村先生は人の体を良くすることを天職にされ、「人は健康第一」と考えて自然形体院を作られた。
健康とひきこもりは関係しているのでないかと紹介させてもらった。

4 講演 「健康とひきこもり」～家族みんなで健康に～

きむら自然形体院 木村 竜一氏

- ひきこもりの方が外に出られない原因の一つに「健康」がある。
- 体の調子が悪いと、しんどい、体調が悪いということで外に出たくない。
- 「体の健康なくしてひきこりの脱却なし」という考えでオリーブとの懸け橋になればと思っている。
- 具体的には、一人の中学生 (女性) の登校拒否を心理カウンセリングと施術で良くなり、高校受験に合格し、現在その学校に通学している。
- 私自身も登校拒否気味であったが、親とのギャップを感じ、自ら専門学校に行き、東京で

1年間修業した後、現在地で自然形体院を営んでいる。
○講演の後、月例会出席者の中から数名にモデルをお願いし、木村先生から実際に施術を受け、その効果を実感された。

□質疑応答 (Q・A)

- Q1 体が硬くて凝り性気味の方に共通していることはどんなことか。
A みなさん「猫背」の方が多い。背中疲労を取る（両手の第一関節位で優しく上から下に撫でる）ことで楽になることができます。
- Q2 ひきこもって外に出られない場合は来てくれるのか。
A 要望があれば考えます。
- Q3 施術中は会話しながら行うのか。
A 話しながらすると疲れるので控えている。
- Q4 県内にはどのくらいあるのか。
A 現在は2か所（さぬき市志度に1か所）ある。
- Q5 インターネットにホームページは開設されているか。
A 木村竜一のプロブログで経緯を載せている。

5 ひきこもりピアサポーター養成研修報告

平成25年11月9日から11日までの三日間、富山県宇奈月温泉自立塾において、厚生労働省の「ひきこもり対策推進事業の拡充」の一つである「ひきこもりサポーター養成研修推進事業」としてNPO法人全国ひきこもりKHJ親の会本部が主催した研修に参加した元当事者Hさん、Mさん（いずれも男性）から概要等の報告がありました。

(1) Mさんの報告

- ア 目的 ピアサポーターによる継続的訪問や支援を行い、ひきこもりへの早期対応をする。
- イ 出席者 50名（当事者18名、親32名）
- ウ 研修後 1月まで実践、2月東京でフォロー後、3月サポーターに登録予定
- エ 内容 12講義（90分講義、10分休憩の連続、主なもの）
- (ア) ひきこもりの理解と対応
心と体の改善、五感と生活の改善が大事
- (イ) 訪問支援
ピアサポーターによる問いかけでは百人百様なので経験を過信しない。
- (ウ) 当事者の回復
働いているから、活動しているから回復ではない。本人が回復しているか否かが大事である。
- (エ) 親の教育感
親は時代の変化に対応しないといけない。
- (オ) 親の葛藤
親は一発ストレート回復の期待が大き過ぎる。何よりもコミュニケーションジャブが必要である。
- (カ) コミュニケーション
言葉を反射的に言ってしまうと思いと違うことが出てしまう。
日頃のかかわりで言葉は決まっているので言葉を変えないといけない。
親は子供がNOと言える行動をとり、子供に選ばせてやるのが自立につながる。

(キ) 居場所

居場所は「エネルギーを蓄える」という役割がある。ピアサポーターにも居場所が必要である。

オ ワークショップ

親の皆さんがシーツをかぶり、子供が親に言いたくない言葉を言うことで「親の言葉のニュアンス」が伝わってくる。こそこそ話も耳に聞こえる。子供は親の話を聴いている。子供は布団の中で孤独と闘っている。

(2) Hさんの感想

- 6人の相部屋(当事者5名と臨床心理士1名)は、色々な症状の方と一緒に、十分な交流とまではいかなかったが良かった。
- ピアサポーターとして訪問した時は、自分のこととして暴走しやすいので気を付けなければいけないと思った。
- サポートのパターンには色々あるので、自分のことは横に置いて自分に合ったタイプを選ぶようにしなければならない。

(3) 質疑応答 (Q・A)

Q1 良かったことはどのようなことか。

A 親(70代男性)と話が出来たこと。当事者同士共感できる部分が多々あったこと。

ライフ・イベント(冠婚葬祭)では子供の存在・変化に気付いてあげる。何かやりたいと言ったときは「48時間以内」に行動を起こす必要がある。

Q2 息子は15年間母親に顔を合わせない。食事を用意し、声掛けもするが未だに顔を合わせない。どうしたらいいか。

A 共依存になっているのでないか。一言目は抑えてから話すようにする。本人はわかっていることを話されると腹が立つものです。

補足:「依存」とは、何か(物・人・事物)に頼りすぎ、何かがないと生活にならないこと。

「共依存」とは、お互いにもたれあっていること。

6 グループ別話し合い

今回は、2グループに分かれて「ひきこもり新しい流れについて」や「今日の講演等を受けての親のかかわり方」などを話し合いました。

以上

[11/30 講演の感想]

ひきこもりのゴール「就労」でもなく「対人関係」でもなく

私は大学でソーシャルワークを学んでいますが、SWの目的は、その人がその人らしく生きていけるように支援することであり、援助者は当事者の主体性を引き出すように側面から支援するということが強調して言われています。現実の福祉の世界というのは割と「やってあげている」という姿勢の方が多いのですが「させて頂いている」という姿勢がとても大事だと考えています。先日の松山大学の石川先生も仰っていたことですが、「ひきこもりのゴールとは就労でもなく対人関係でもなく、社会復帰でもなく、自分の生に納得すること」、というのはまさに私の学んでいることではないかと感じていて、深く感銘を受けました。

(Iさんのメールより)

[12・2014 / 1月居場所活動予定]

内 容	月	日	曜 日	時 間	担 当
2013年度第8回運営委員会	12	1	日	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田 勝先生）	12	14	土	9:00～	加藤
ポパイの会（月例会一部参加後、別の部屋に移動）予定	12	22	日	13:30～ 7階 集合	森下
ポパイの会 2014年 *12/22の参加者と相談の予定です。	1	26 ?	日	13:30～	森下 加藤
2013年度第9回運営委員会	1	5	日	13:30～	川井
個人カウンセリング（松田 勝先生） *1月は日曜日になっています。	1	12	日	9:00～	川井

【講演会等のお知らせ】

平成25年度第2回香川県ひきこもり対策連絡協議会 香川県精神保健福祉センター

日 時	12月24日(火)13:30～16:00	場 所	香川県高松合同庁舎 4階第2会議室
内 容	事例検討 他		

高少年育成支援ネットワークフォーラム

主催：香川県・（公財）明治百年記念香川県青少年基金・青少年育成香川県民会議

日 時	平成26年1月11日(土) 受付12:30 13:00～16:00
会 場	サンポートホール高松第2小ホール
内 容	◎表彰式他 ◎講演「日本社会の変容と子ども・若者が直面する困難」 本田 由紀氏 ◎パネルディスカッション「青少年の未来を共に創るために—コミュニティ・つながり・居場所—」
講 師 コメンテーター	本田 由紀氏 東京大学大学院教育学研究科教授
コーディネーター	竹森 元彦氏 香川大学大学院教育学研究科教授
パネリスト	○川井 富枝氏 ○竹田美保子氏 ○宮生 和郎氏(横浜市教育委員会)
入 場 料 申 込 み	無 料 申込み締切:12月25日(水) 県総務部県民活動・男女共同参画課 ☎ 087-832-3196 FAX 087-831-1165

公開講演会 KHJ 高知県親の会「やいろ鳥」の会

日 時	平成 26 年 1 月 12 日 (日) 13:30～
会 場	高知市文化プラザかるぽーと 9階 大講義室 ☎ 088-883-5011 高知市九反田2-1
内 容	「日本における ひきこもりの新しい流れ」
講 師	中垣内 正和氏 新潟県医療法人佐潟荘副院長・精神科医・KHJ 副理事長
参加費	無 料
共 催	○KHJ 香川県オリーブの会 ○KHJ 徳島県「つばめの会」 ○KHJ 愛媛県こまどりの会

*なお、12日の夜には先生を囲んで懇親会をします。会費5000円です。竹中あおい氏まで申し込んで下さい。☎ 0887-55-1255



11/10 富山宇奈月温泉
研修会場にて・・・
当日は山あいから凄いい音
と共に風が吹き、雪が舞
い、すぐに冷たい雨が降
り出しました。

中垣内
正和

奥山の
せせらぎうなづき
ピアの会